



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2021年1月29日

上場会社名 株式会社ワコム 上場取引所 東  
 コード番号 6727 URL https://www.wacom.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 井出 信孝  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 CFO (氏名) 町田 洋一 TEL 03-5337-6502  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月5日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	85,194	20.0	12,773	123.6	12,574	130.2	9,404	117.6
2020年3月期第3四半期	70,999	△3.7	5,713	△5.8	5,461	△9.7	4,323	△0.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 9,605百万円 (140.2%) 2020年3月期第3四半期 3,999百万円 (△6.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	57.89	—
2020年3月期第3四半期	26.61	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	71,108	36,216	50.9	222.94
2020年3月期	51,156	27,735	54.2	170.75

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 36,216百万円 2020年3月期 27,735百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	7.50	7.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	19.7	13,000	133.5	12,700	144.5	9,500	142.5	58.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

詳細は、添付資料 5 ページ 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 11 ページ 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期3Q	166,546,400株	2020年3月期	166,546,400株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	4,097,161株	2020年3月期	4,121,301株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期3Q	162,435,896株	2020年3月期3Q	162,425,099株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 5 ページ 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報)	11
3. 補足情報	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年12月31日まで）における当社グループを取り巻く事業環境において、世界経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行の影響により経済活動が著しく制限されたことから第1四半期連結会計期間（2020年4～6月期）に深刻な景気後退に陥りました。その後、各国での経済活動の再開と中国での経済成長による緩やかな回復は見られましたが、当第3四半期連結会計期間（2020年10～12月期）に入り、先進国を中心に同感染症が再び拡大したことから回復が失速するなど依然として先行き不透明な状況が続きました。このような情勢下、IT市場では、IoT（モノのインターネット）による情報ネットワークの拡大やデータソースの多様化に加え、世界各地で人の移動制限によりモバイル、クラウド、ビッグデータ、ソーシャルネットワークの重要性が高まり、それらに関連した技術革新や利便性向上などが見られました。なお、同期間の主要通貨に対する円相場は、各国の景気や金融・貿易政策等に対する見方を反映し、前年同期の平均レートと比較すると対ドル及び対中国元では僅かに円高、対ユーロでは僅かに円安となりました（為替変動による連結業績への影響は、売上高を約19億円押し下げ、営業利益を約3億円押し下げたと試算）。

このような事業環境の下、当社グループは、2019年3月期に策定した2022年3月期を最終年度とする中期経営計画「Wacom Chapter 2」の達成に向け、「テクノロジー・リーダーシップ・カンパニー」としてペンやインクのデジタル技術で常に市場の主導権を握りつつ、持続的な成長を目指してまいりました。当第3四半期連結累計期間では、2019年3月期よりスタートした経営チームの下で、IoT、VR（仮想現実）/MR（複合現実）、AI（人工知能）、セキュリティ（安全性）といった成長分野において、事業モデルを一段と進化させるための将来戦略を協業先とともに推し進め、経営判断の質の向上を通して生産性やコスト構造の改善など経営課題にも全社的に取り組みました。

ブランド製品事業については、創造性発揮のための最高体験をお客様にお届けするため、技術革新に取り組むとともに、顧客サービスの向上に努めました。当第3四半期連結累計期間では、主力のクリエイティブソリューションにおいてディスプレイ製品及びペンタブレット製品を中心に販売を伸ばしたことなどから、ブランド製品事業全体としての売上高は、前年同期を上回りました。

テクノロジーソリューション事業については、デジタルペン技術（アクティブES：Active Electrostatic、EMR：Electro Magnetic Resonance）の事実上の標準化に取り組むとともに、タブレット・ノートPC市場での利用拡大や教育市場での事業機会の拡大に努めました。当第3四半期連結累計期間では、EMRテクノロジーソリューション他の売上高が堅調に推移したことなどから、テクノロジーソリューション事業全体としての売上高は、前年同期を上回りました。

中期経営計画の経営課題に対する全社的な取り組みとしては、利益重視の経営を目指し、組織やオペレーション（資材調達、生産管理等）の改革とコスト構造の改善などに努め、開発エンジニアリングやオペレーションにおいて事業間の垣根を越えた連携を図りました。一方で、販管費については必要性の見極めを行うなど最適化に引き続き取り組みました。また、11月にはアート、テクノロジー、文房具、教育などの異業種・異文化パートナーが参加するコミュニティイベント「Connected Ink（コネクテッド・インク）2020」を新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対策を施した国内外の会場をオンラインで結ぶハイブリッドな形式で24時間にわたり開催し、最新のデジタルトランスフォーメーション及びインク・テクノロジーと多様なエコシステム・パートナーとの組み合わせにより生み出されるコミュニティを通じて未来の社会のために活動する新たな試みを始めました。

（注）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行による当社グループの事業活動への影響及び取り組みについては、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明＜新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響及び取り組み＞」をご覧ください。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高が85,194,481千円（前年同期比20.0%増）となり、営業利益は12,773,317千円（同123.6%増）、経常利益は12,573,841千円（同130.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,404,103千円（同117.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、事業環境の変化に適合したより適切な業績説明を行うため、第1四半期連結会計期間より、各セグメントの業績説明におけるカテゴリーの範囲、名称及び記載順を一部変更しております。

① ブランド製品事業

<クリエイティブソリューション>

クリエイティブソリューションは、ディスプレイ製品及びペンタブレット製品の売上高が前年同期を大幅に上回ったことなどから、大幅な増収となりました。

○ ディスプレイ製品

「Wacom Cintiq Pro (ワコム シンティック プロ)」は、営業活動の制約、経年等により、前年同期の売上高を大幅に下回りました。一方で、前期に発表したエントリーモデル「Wacom Cintiq (ワコム シンティック) 22」、「Wacom One (ワコム ワン) 液晶ペンタブレット13」を中心に拡販に努めました。これらの結果、ディスプレイ製品全体の売上高は、前年同期を大幅に上回りました。

○ ペンタブレット製品

「Wacom Intuos Pro (ワコム インテュオス プロ)」は、営業活動の制約、経年等の影響がある中、前年同期の売上高を上回りました。また、オンライン教育及びテレワークの普及に伴う需要増加により、「Wacom Intuos (ワコム インテュオス)」、「One by Wacom (ワン バイ ワコム)」は、いずれも前年同期の売上高を大幅に上回りました。これらの結果、ペンタブレット製品全体の売上高は、前年同期を大幅に上回りました。

○ モバイル製品他

デジタルペン搭載タブレット市場が拡大し競争環境が大きく変化するなか、前第3四半期連結会計期間に発表したWindows 10搭載クリエイティブタブレット「Wacom MobileStudio Pro (ワコム モバイルスタジオ プロ)」の寄与により、モバイル製品の売上高は、前年同期を僅かに上回りました。一方で、モバイル製品以外のスタイラスペン製品を中心とした売上高は、前年同期を大幅に下回りました。これらの結果、モバイル製品他全体の売上高は、前年同期を下回りました。

<ビジネスソリューション>

液晶サインタブレット「STU (エスティユー)」シリーズの売上高は、営業活動の制約が生じ、前年同期を大幅に下回りました。この結果、ビジネスソリューション全体の売上高は、前年同期を下回りました。

これらの結果、ブランド製品事業の売上高は44,478,702千円(前年同期比37.7%増)、セグメント利益は8,366,097千円(同463.7%増)となりました。

② テクノロジーソリューション事業

<AESテクノロジーソリューション>

生産、サプライチェーンオペレーションの制限があった中、AESテクノロジーソリューション全体の売上高は、前年同期を僅かに上回りました。アクティブES方式デジタルペン製品については、OEM(相手先ブランド名製造)提供先のメーカー各社から引き続き高い評価を得ております。

<EMRテクノロジーソリューション他>

OEM提供先のメーカー向けの売上高は、全体として増加しました。この結果、EMRテクノロジーソリューション他全体の売上高は、前年同期を上回りました。

これらの結果、テクノロジーソリューション事業の売上高は40,715,779千円(前年同期比5.2%増)、セグメント利益は7,897,004千円(同11.1%増)となりました。

<新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響及び取り組み>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行による当第3四半期連結累計期間での当社グループの事業活動への影響及び取り組みについては、下記のとおりであります。

ブランド製品事業では、当第3四半期連結累計期間において、新製品に対する導入・販促活動が十分に展開できず、また、営業活動が制約されました。特に後者については、主にビジネスソリューションやクリエイティブソリューションのプロ向けのディスプレイ製品の販売に影響を及ぼしました。一方で、家庭でのオンライン教育の志向の高まりなどにより、主にクリエイティブソリューションのペンタブレット製品の中低価格帯モデル（「Wacom Intuos」、「One by Wacom」）に加えて、ディスプレイ製品のエントリーモデル（「Wacom Cintiq」、「Wacom One 液晶ペンタブレット13」）の販売が好調に推移しました。

テクノロジーソリューション事業では、当第3四半期連結累計期間において、生産、サプライチェーンオペレーションが制限されたことや法人向けPC需要の一部伸び悩みなどから、主にAESテクノロジーソリューションの業績に影響を及ぼしました。

全社的な取り組みとしては、全世界的に、テレワークの実施等柔軟な勤務体制を継続することで、従業員の安全確保、感染拡大防止に向けた社会的責任の遂行を図りました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、71,107,742千円となり、前連結会計年度末に比べ19,952,039千円増加しました。これは主に、現金及び預金が8,621,798千円、商品及び製品が5,623,657千円及び売掛金が4,279,334千円増加したことによります。

負債の残高は、34,891,644千円となり、前連結会計年度末に比べ11,470,715千円増加しました。これは主に、買掛金が8,231,260千円、未払法人税等が2,278,386千円及び賞与引当金が2,094,285千円増加し、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が2,000,000千円減少したことによります。

純資産の残高は、36,216,098千円となり、前連結会計年度末に比べ8,481,324千円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益で9,404,103千円増加し、剰余金の配当で1,136,976千円減少したことによります。これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.3ポイント減少し、50.9%となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、5,483,798千円増加（前年同期は2,424,131千円増加）し、当第3四半期連結会計期間末には27,025,265千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの内訳は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、13,877,433千円（前年同期は10,080,321千円の収入）となりました。これは、当第3四半期連結累計期間において税金等調整前四半期純利益12,519,408千円及び仕入債務の増加額8,123,680千円などの収入要因が、たな卸資産の増加額5,933,257千円などの支出要因を上回ったことによります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、4,221,323千円（前年同期は1,741,772千円の使用）となりました。主な内訳は、定期預金の預入による支出3,138,000千円及び有形固定資産の取得による支出886,379千円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3,945,030千円（前年同期は5,735,603千円の使用）となりました。主な内訳は、長期借入金の返済による支出2,000,000千円、配当金の支払額1,136,291千円及び短期借入金の返済による支出500,000千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえ、2020年10月30日の「2021年3月期 第2四半期決算短信」で公表した2021年3月期の通期連結業績予想を次のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

2021年3月期通期連結業績予想の修正 (2020年4月1日から2021年3月31日まで)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	99,000	9,000	8,800	6,300	38.78
今回修正予想 (B)	106,000	13,000	12,700	9,500	58.48
増減額 (B - A)	7,000	4,000	3,900	3,200	
増減率 (%)	7.1	44.4	44.3	50.8	
(ご参考) 前期通期実績 (2020年3月期)	88,580	5,567	5,194	3,917	24.12

想定為替レート

[今回改定] 1米ドル=105円、1ユーロ=126円

[前回公表時] 1米ドル=108円、1ユーロ=121円

(通期連結業績予想の修正理由)

当社グループを取り巻く事業環境は依然として不透明な状況にある中、売上高は、主に、当第3四半期連結会計期間の業績及び直近における業績動向を反映し、前回予想を上回る見通しとなりました。営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、主に、売上高の増加や製品ミックスの変化による影響を受け、いずれも前回予想を大幅に上回る見通しとなりました。第4四半期連結会計期間については、引き続き、オンライン教育及びテレワークの普及に伴う需要増加を見込んでいることなどから、前年同期比で増収増益を想定しております。

事業セグメント別の売上高、セグメント利益の予想値については、13ページ「3. 補足情報 2021年3月期 通期決算予想 (2) 事業セグメント別業績」をご覧ください。

なお、配当予想については、事業環境が不透明であることに鑑み、現時点で修正いたしません。利益配分については、将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続と機動的な自己株式取得とすることを基本方針としておりますが、当期の業績の進捗を注視しつつ、配当予想を修正できる環境が整った場合には、速やかに修正内容を開示いたします。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれておりますので、実際の業績は様々な要因により予想とは異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,541,467	30,163,265
売掛金	9,522,532	13,801,866
商品及び製品	6,755,609	12,379,266
仕掛品	192,890	209,676
原材料及び貯蔵品	1,889,286	2,278,415
その他	2,297,735	3,313,231
貸倒引当金	△26,520	△61,875
流動資産合計	42,172,999	62,083,844
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	4,808,851	4,972,896
有形固定資産合計	4,808,851	4,972,896
無形固定資産		
その他	1,994,803	1,692,084
無形固定資産合計	1,994,803	1,692,084
投資その他の資産		
その他	2,237,371	2,417,239
貸倒引当金	△58,321	△58,321
投資その他の資産合計	2,179,050	2,358,918
固定資産合計	8,982,704	9,023,898
資産合計	51,155,703	71,107,742
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,623,640	14,854,900
短期借入金	500,000	—
1年内返済予定の長期借入金	2,000,000	4,000,000
未払法人税等	399,880	2,678,266
賞与引当金	1,071,520	3,165,805
役員賞与引当金	36,056	61,952
その他	5,138,660	6,320,363
流動負債合計	15,769,756	31,081,286
固定負債		
長期借入金	6,000,000	2,000,000
退職給付に係る負債	898,301	919,120
資産除去債務	251,032	252,876
その他	501,840	638,362
固定負債合計	7,651,173	3,810,358
負債合計	23,420,929	34,891,644



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,203,469	4,203,469
資本剰余金	6,100,962	6,103,758
利益剰余金	20,341,982	28,609,109
自己株式	△1,875,838	△1,864,850
株主資本合計	28,770,575	37,051,486
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,149	△3,089
為替換算調整勘定	△1,042,198	△841,606
退職給付に係る調整累計額	11,546	9,307
その他の包括利益累計額合計	△1,035,801	△835,388
純資産合計	27,734,774	36,216,098
負債純資産合計	51,155,703	71,107,742

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	70,999,213	85,194,481
売上原価	46,886,790	52,063,414
売上総利益	24,112,423	33,131,067
販売費及び一般管理費	18,399,671	20,357,750
営業利益	5,712,752	12,773,317
営業外収益		
受取利息	30,035	46,329
受取補償金	—	17,814
その他	47,097	34,876
営業外収益合計	77,132	99,019
営業外費用		
支払利息	33,290	29,809
為替差損	261,197	225,626
その他	34,300	43,060
営業外費用合計	328,787	298,495
経常利益	5,461,097	12,573,841
特別利益		
固定資産売却益	5,277	—
新株予約権戻入益	1,914	—
特別利益合計	7,191	—
特別損失		
固定資産売却損	—	1,608
投資有価証券評価損	58,705	50,171
その他	42,301	2,654
特別損失合計	101,006	54,433
税金等調整前四半期純利益	5,367,282	12,519,408
法人税等	1,044,571	3,115,305
四半期純利益	4,322,711	9,404,103
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,322,711	9,404,103

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	4,322,711	9,404,103
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△174	2,060
為替換算調整勘定	△324,190	200,592
退職給付に係る調整額	261	△2,239
その他の包括利益合計	△324,103	200,413
四半期包括利益	3,998,608	9,604,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,998,608	9,604,516
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,367,282	12,519,408
減価償却費	1,980,049	1,727,373
株式報酬費用	—	6,265
新株予約権戻入益	△1,914	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5,551	36,626
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△364,392	2,066,996
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,481	25,895
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	40,068	17,673
受取利息及び受取配当金	△30,035	△46,329
支払利息	33,290	29,809
為替差損益 (△は益)	81,201	482,795
有形固定資産売却損益 (△は益)	△5,277	1,608
有形固定資産除却損	11	18
無形固定資産除却損	42,290	2,636
投資有価証券評価損益 (△は益)	58,705	50,171
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,786,464	△4,988,561
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,181,511	△5,933,257
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,518,232	8,123,680
未払消費税等の増減額 (△は減少)	219,122	△215,923
その他	331,989	1,047,334
小計	10,667,738	14,954,217
利息及び配当金の受取額	26,555	47,130
利息の支払額	△33,724	△27,867
法人税等の支払額	△580,248	△1,096,047
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,080,321	13,877,433
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△3,138,000
有形固定資産の取得による支出	△1,600,228	△886,379
無形固定資産の取得による支出	△149,731	△159,772
有形固定資産の売却による収入	10,004	148
敷金及び保証金の差入による支出	△2,276	△38,039
敷金及び保証金の回収による収入	459	719
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,741,772	△4,221,323
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△2,500,000	△500,000
長期借入れによる収入	2,000,000	—
長期借入金の返済による支出	△4,000,000	△2,000,000
リース負債の返済による支出	△264,166	△308,739
配当金の支払額	△971,437	△1,136,291
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,735,603	△3,945,030
現金及び現金同等物に係る換算差額	△178,815	△227,282
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,424,131	5,483,798
現金及び現金同等物の期首残高	16,762,726	21,541,467
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,186,857	27,025,265

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブランド製品 事業	テクノロジー ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	32,296,256	38,702,957	70,999,213	—	70,999,213
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	32,296,256	38,702,957	70,999,213	—	70,999,213
セグメント利益	1,484,216	7,106,819	8,591,035	△2,878,283	5,712,752

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,878,283千円は、報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等にかかる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブランド製品 事業	テクノロジー ソリューション 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	44,478,702	40,715,779	85,194,481	—	85,194,481
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	44,478,702	40,715,779	85,194,481	—	85,194,481
セグメント利益	8,366,097	7,897,004	16,263,101	△3,489,784	12,773,317

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,489,784千円は、報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等にかかる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

2021年3月期 第3四半期決算概要（連結累計期間）

(1) 決算業績

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減	
	Q3累計実績	Q3累計実績	金額	率
	百万円	百万円	百万円	
売上高	70,999	85,194	14,195	20.0%
営業利益 (営業利益率)	5,713 8.0%	12,773 15.0%	7,060	123.6%
経常利益 (経常利益率)	5,461 7.7%	12,574 14.8%	7,113	130.2%
当期純利益 (当期純利益率)	4,323 6.1%	9,404 11.0%	5,081	117.6%
P/L換算為替レート(期中平均)	円	円	円	
(USドル)	109.10	105.87	-3.23	-3.0%
(ユーロ)	121.46	122.30	0.84	0.7%

注) 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」に相当します。

(2) 事業セグメント別業績

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減	
	Q3累計実績	Q3累計実績	金額	率
	百万円	百万円	百万円	
ブランド製品事業 売上高	32,296	44,478	12,182	37.7%
セグメント利益 (利益率)	1,484 4.6%	8,366 18.8%	6,882	463.7%
テクノロジーソリューション事業 売上高	38,703	40,716	2,013	5.2%
セグメント利益 (利益率)	7,107 18.4%	7,897 19.4%	790	11.1%

注) 各事業のセグメント利益は、管理部門等のコーポレート費用の「調整額」の消去前です。

(3) 製品ライン別売上

(現地法人別)	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減	
	Q3累計実績	Q3累計実績	金額	率
	百万円	百万円	百万円	
<b>ブランド製品事業</b>	<b>32,296</b>	<b>44,478</b>	<b>12,182</b>	<b>37.7%</b>
クワイティブソリューション	29,354	41,796	12,442	42.4%
ディスプレイ	13,285	18,221	4,936	37.2%
(日本)	2,931	3,462	531	18.1%
(米国)	4,307	5,791	1,484	34.5%
(ドイツ)	2,919	4,876	1,957	67.0%
(アジア・オセアニア)	3,128	4,092	964	30.8%
ペンタブレット	14,118	21,989	7,871	55.7%
(日本)	968	1,290	322	33.2%
(米国)	4,022	6,654	2,632	65.5%
(ドイツ)	3,607	6,641	3,034	84.1%
(アジア・オセアニア)	5,521	7,404	1,883	34.1%
モバイル他	1,951	1,586	-365	-18.7%
(日本)	353	314	-39	-11.0%
(米国)	863	710	-153	-17.8%
(ドイツ)	453	357	-96	-21.2%
(アジア・オセアニア)	282	205	-77	-27.2%
ビジネスソリューション	2,942	2,682	-260	-8.8%
(日本)	949	735	-214	-22.6%
(米国)	419	628	209	50.1%
(ドイツ)	1,269	1,007	-262	-20.6%
(アジア・オセアニア)	305	312	7	2.1%
<b>テクノロジーソリューション事業</b>	<b>38,703</b>	<b>40,716</b>	<b>2,013</b>	<b>5.2%</b>
AESテクノロジー	13,811	13,836	25	0.2%
EMRテクノロジー他	24,892	26,880	1,988	8.0%
<b>合計</b>	<b>70,999</b>	<b>85,194</b>	<b>14,195</b>	<b>20.0%</b>

注) テクノロジーソリューション事業の売上はすべて日本に集計しています。

注) 2021年3月期での製品カテゴリーの見直しに伴い、ブランド製品事業の「コンシューマビジネス」は「モバイル他」に統合し、テクノロジーソリューション事業の「スマートフォン向け」及び「タブレット向け」は「AESテクノロジー」及び「EMRテクノロジー他」に組み替えて表示しています。

(4) 現地法人別売上

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減	
	Q3累計実績	Q3累計実績	金額	率
	百万円	百万円	百万円	
日本	43,905	46,518	2,613	6.0%
(うち、テクノロジーソリューション事業除く日本)	5,202	5,802	600	11.5%
米国	9,610	13,783	4,173	43.4%
ドイツ	8,247	12,880	4,633	56.2%
アジア・オセアニア	9,237	12,013	2,776	30.1%
<b>合計</b>	<b>70,999</b>	<b>85,194</b>	<b>14,195</b>	<b>20.0%</b>

注) テクノロジーソリューション事業の売上はすべて日本に集計しています。

注) ドイツは欧州・中東・アフリカ地域を含む。アジア・オセアニアは中国、韓国、オーストラリア、シンガポール、台湾、インドの現地法人の合計です。

## (5) 資本的支出、減価償却費、研究開発費

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減	
	Q3累計実績	Q3累計実績	金額	率
	百万円	百万円	百万円	
資本的支出	1,576	1,040	-536	-34.0%
減価償却費	1,726	1,419	-307	-17.8%
研究開発費	3,125	3,285	160	5.1%

注) 資本的支出は、有形固定資産及び無形固定資産の新規取得金額の合計です。  
注) 実績には、リース資産に関わる設備投資額及び減価償却費を含めていません。

## 2021年3月期 通期連結業績予想

## (1) 決算業績

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減		2021年3月期	対前回予想増減	
	通期実績	通期予想	金額	率	前回予想	金額	率
	百万円	百万円	百万円		百万円	百万円	
売上高	88,580	106,000	17,420	19.7%	99,000	7,000	7.1%
営業利益 (営業利益率)	5,567 6.3%	13,000 12.3%	7,433	133.5%	9,000 9.1%	4,000	44.4%
経常利益 (経常利益率)	5,194 5.9%	12,700 12.0%	7,506	144.5%	8,800 8.9%	3,900	44.3%
当期純利益 (当期純利益率)	3,917 4.4%	9,500 9.0%	5,583	142.5%	6,300 6.4%	3,200	50.8%
P/L換算為替レート(期中平均)	円	円	円		円	円	
(USドル)	109.10	105.00	-4.10	-3.8%	108.00	-3.00	-2.8%
(ユーロ)	121.14	126.00	4.86	4.0%	121.00	5.00	4.1%

注) 当期純利益は、「親会社株主に帰属する当期純利益」に相当します。

注) 2021年3月期の前回予想は、2020年10月30日付の決算短信に添付した補足情報の数値です。

通期予想の為替レートは2021年1月以降の想定為替レートを表示しています。

## (2) 事業セグメント別業績

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減		2021年3月期	対前回予想増減	
	通期実績	通期予想	金額	率	前回予想	金額	率
	百万円	百万円	百万円		百万円	百万円	
ブランド製品事業							
売上高	42,587	56,000	13,413	31.5%	51,000	5,000	9.8%
セグメント利益 (利益率)	1,706 4.0%	9,400 16.8%	7,694	450.9%	5,700 11.2%	3,700	64.9%
テクノロジーソリューション事業							
売上高	45,993	50,000	4,007	8.7%	48,000	2,000	4.2%
セグメント利益 (利益率)	7,650 16.6%	8,400 16.8%	750	9.8%	7,800 16.3%	600	7.7%

注) 各事業のセグメント利益は、管理部門等のコーポレート費用の「調整額」の消去前です。

注) 製品ライン別現地法人別売上の通期予想は開示していません。

## (3) 資本的支出、減価償却費、研究開発費

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減		2021年3月期	対前回予想増減	
	通期実績	通期予想	金額	率	前回予想	金額	率
	百万円	百万円	百万円		百万円	百万円	
資本的支出	1,791	1,600	-191	-10.7%	2,050	-450	-22.0%
減価償却費	2,280	1,900	-380	-16.7%	1,950	-50	-2.6%
研究開発費	4,214	4,900	686	16.3%	5,360	-460	-8.6%

注) 資本的支出は、有形固定資産及び無形固定資産の新規取得金額の合計です。

注) 通期実績と通期予想には、リース資産に関わる設備投資額及び減価償却費を含めていません。